

## 1. 小野寺会長挨拶

### 『犬の朝散歩』

名前は“こてつ” 牡の狛10歳8kg、元気になって半年経った。

1日2回、朝晩の散歩をしている。この時期、朝まだ暗い。しかし彼は時間が来ると顔を舐めて催促する。もう少し寝ていたい時間にもかかわらずだ。どこで散歩の時刻を感知しているのか？恨めしい。靴、胴輪、リードを着け玄関を飛び出す。準備運動する間も無く引っ張られて行く。どっち方向に行くのか彼次第。左、右、



前、こちらと折り合わない足を突っ張り、じっとこちらを見つめ行きたいのはこっちだと意思表示する。こうして毎日小一時間、排泄を済ませ帰宅する。玄関からは愛犬ロードを洗面所へ向かい一休み。落ち着いてから汚れを落とし一仕事完了。このような毎日を過ごしているため、遠出もできない状態である。

## 2. 11月・12月・1月の事業内容

状況 新型コロナウイルスの影響で、相談会を中心とした活動になっている。現時点では沈静化の兆しも見えているが、また油断はできない。この年末年始過ぎた状況をみてから、本格的に動き出して来そうです。

### ① 事業の実施及び実施予定

#### 定例会（相談会）

11月 8日（月） 11日（木） 24日（水） 26日（金）

12月 6日（月） 9日（木）

1月 19日（水） 21日（金）

#### 拡大定例会（相談会）

10/30（土） 10:30～ 上田公民館開催

1/29（土） 10:30～ 上田公民館開催予定

内容 シニアの会活動の方向性について議論

### ② ご近所支え合い活動助成金 について

- ・昨年同様事業中止申請書を提出
- ・来年度の助成金申請について、役員会及びコウサポいわてと相談して対応を進めていく

### 3. 会員紹介

#### 水戸谷完爾さん（会計監査）

監査を担当している水戸谷です。出身地は秋田県仙北市で、秋田市内の高校を卒業後、宮城県多賀城市にある変圧器や配電盤を製造している会社に入社して9年ほどお世話になりました。そこでは配電盤・制御盤の設計と東北6県を担当する営業を経験しました。昭和45年、盛岡の得意先の人から誘われて現在の東日本機電開発(株)の設立から関わりました。28歳のことです。設立時は取締役工場長として経理を除く一切の業務を担い、10年間は不眠不休で働いたのが懐かしく思われます。12年目の秋に親会社が破綻して社長を引き継ぎました。今年の1月で50周年を迎えましたが、現在の住所は創業の場所から4ヶ所目になり、平成20年に息子に社長を引継ぎ、現在は非常勤の取締役会長として関わっています。わが社が創業以来目指しているのは「地域の仕事は地域でこなす」ことです。そのために技術力の向上が重要な条件です。30年前に入会した岩手県中小企業家同友会では一通りの役を経験して、現在は相談役として在籍しています。



#### 宮下慶一郎さん

本年度入会した、県職員OBの新参加者です。生まれは大阪府貝塚市。京都大学農学部卒業後、岩手県に採用されました。県職員時代の前半は、県立農業試験場の研究員として土壌肥料分野の技術開発に、後半の大半は、岩手県農業研究センター、岩手県生物工学研究所・(公財)岩手生物工学研究センターの整備(計画段階から)・管理運営に携わってきました。県退職後は(公財)生工研、(公財)いわて産業振興センター等にお世話になり、本年4月からは新米主夫として妻の介護に専念しています。平成6年からのINS会員です。農業・食品等分野の大学や公設研究機関と産業界との連携について、これからも考えていきたいと思っています。



### 4. コラム 『なんともふしぎな岩(続石)』

遠野郷に足を踏み入れると、カップやザシキワラシなどの妖怪が直ぐ近くにいるような感覚になるのは筆者だけであろうか。また遠野には伝承話の他にも、不思議な場所がいくつもある。カップ伝説の「かっぱ淵」、姥捨て山伝説の「デンドラ野」等が有名である。今回はそれらの中でも特に不思議な岩「続石」について紹介しよう。盛岡市から遠野に抜ける国道396号線沿いに「続石」の看板が見えてくる。小さいパーキングに車を止めて、いざ出発。結構急勾配な山道を、20分位息を切らしながら、やっとの思いでたどり着いた。体力に自信のない方は遠慮したほうが無難である。



【続石】

その場所はいくぶん平らな空間が広がっていて、「続石」は少し奥まった所に鎮座していた。一見2本の台石に、大きな笠石が乗っていて、鳥居のような形に見えるが、実は片方の台石には接触せず、一つの台石にだけに乗っている。先の大震災でも崩れ落ちることなくこの形を保っているとは、本当に不思議な岩である。また、続石弁慶が作り出したという言い伝えがある。初め弁慶は近くにある別の石の上に、笠となる石を乗せた。ところが、乗せられた石は「自分は位の高い石なのに、その上に石を乗せられたままとするのは残念である」と言って一晩中泣き続けた。そこで弁慶は別の石を台石として、その笠石を乗せ直したという。そして泣き続けた石もこの続石のそばにあり、泣石と呼ばれている。またこれらの巨石がある場所に少しだけ開けた平地があるが、ここは“弁慶の昼寝場”と伝えられている。上の乗せられた笠石の大きさは、幅7m、奥行5m、厚み2mという巨石であり、弁慶が持ち上げる時に付いたという足形が残っているとされる。奇異な巨石を見た人々が怪力の伝説の持ち主である弁慶が造ったものとして、ある種合理的な説明を残したのであろう。この続石の周りにはあちこちに巨岩が点在している事も不思議な事である。そして、何故弁慶が出てくるのか？という疑問が湧いてくる。やはり義経北帰行伝説との関係があるのか？なぜだか歴史ロマンの術中に嵌ってしまいそうだ。

## 5. 新たな会員の募集について

新規会員の紹介をお願い致します。会員増は会員の皆様の人脈だよりです。

本会報を使っても構いませんので、お知り合いの方へのお声かけをお願いいたします。

連絡先 事務局 志田満

携帯 090-2791-1803 e-mail [mitshida.1029@docomonet.jp](mailto:mitshida.1029@docomonet.jp)

## 6. 編集後記

今年も月一位で山田湾での船釣りをやっています。そして道の駅山田を覗いて赤皿貝を調達してくるという楽しみが増えました。赤皿貝とはホタテ貝に似た2枚貝で、牡蠣の養殖棚や、ホタテの養殖棚に寄生して育つ貝です。今までは駆除の対象になっていて廃棄されていたのですが、きれいに洗って商品として見直されたものです。生では食せませんが、酒蒸しなどになると濃厚な味わいで、むしろ筆者は赤皿貝の方が好



【赤皿貝の酒蒸し】

みである。この貝の人気は徐々に高まっていて、道の駅山田でも必ずあるとは限らない。特に土日等は早くに完売してしまうようだ。この貝はコストパフォーマンスが良く15枚前後入って400円位で買うことができる。最近は大釜の土日ジャンボ市でもたまに見かける。アツアツの酒蒸しで冷酒を一献、まさに至福のひと時です。